

令和3年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
第二東水沢保育園

1. 保育目標

- 健康で明るい子ども
- 自分のことは自分でできる子ども
- 他人のことを考え、協力できる子ども
- 何故だろうと考え、物事に関心を持つ子ども
- 自然に親しみ、愛することができる子ども
- 人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども
- 豊かな心を持つ子ども

2. 施設運営の重点課題

- 保育内容の充実
- 地域社会資源の積極的活用
- 風の子農園運営
- 利用しやすい保育園
- 食育指導の充実
- 同窓会育成のための組織づくりの促進
- 和太鼓を通して日本文化に触れる
- 職員の資質向上

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

3. 評価の項目と取り組み状況

自己評価項目		評価	取り組み状況
1	保育内容の充実	B	一人ひとりの発達の特長や発達過程を捉え、発達や生活の連続性に配慮した保育を進めるように努めた。 コロナ感染防止に努めながら、子ども達の自然体験や感動体験を多く持てる活動に取り組むことができた。
2	地域社会資源の活用	—	コロナ感染防止により、今年度もなかなか活動が難しい状況だった。 保育園での子ども達の様子について、信用金庫さんに、ポスターを掲示させていただき、情報発信の場とした。
3	風の子農園運営	A	畑活動を通して、野菜の生長過程を観察し、様々な変化に気づくことができた。 「大きい・小さい」「何個」など数や量の認識にもつながった。 また、収穫し調理、食することで、食の興味、関心にもつながった。

4	利用しやすい保育園	事業の活動内容を紹介し、情報を積極的に発信することで、就労と子育てが両立できるように支援する。	B	取り組んでいる各種事業について、ポスター等で利用の促進に努めた。一時預かり保育については、利用する方が増加し、保育を必要とする家庭の支援につながった。療育支援について、奥州市発達支援センターと連携しながら、保育を進めることができた。
5	食育指導の充実	「食を通じて家庭、仲間や地域社会とのかかわりを深め、子どもの健やかな心と身体の健全育成を促す」ことに位置づけ、一人ひとりの「食を営む力」を豊かに育む。	B	風の子農園の活動と関連付け取り組んだ。栽培、収穫、調理、食するといった経験を大切に取り組んだ。栄養士、調理員、保育士と園内での共通理解を持つことで、伝統食や旬の物を食する、食事のマナーなど食育指導に取り組むことができた。
6	同窓会育成のための組織づくりの促進	「心のふるさとづくり」として同窓会を育成するため、学童保育や行事案内参加を促しながら卒園児との交流を深めていく。	—	コロナ感染防止により、卒園児への行事参加案内をすることはできなかった。
7	和太鼓を通して日本の文化に触れる	創作和太鼓「風と妖精」に取り組む。	A	5歳児が、園の伝統となった和太鼓活動に取り組んだ。5歳児になってできる活動であり、子ども達の太鼓活動への憧れも大きく、積極的に活動した。コロナ感染防止のため、発表の機会が運動会、卒園式のみとなり残念だった。
8	職員の資質向上	「たくましい子を生み育てる保育」の実践と研究を進める。	B	コロナ感染防止により、様々な研究の機会がリモートとなったが、研修には積極的に参加するよう努めた。3つの課題を持ち、チーム研修として取り組み、テーマに沿った研究と実践に取り組んだ。